



南区子育て支援キャラクター
さくらんぼちゃん&セキレイコさん

つながるみなみく つうしん

Vol.8

2026.9月

発行

特集

学習交流会
開催報告

題字：市立札幌みなみの杜高等支援学校

南区こどもチーム主催 「学習交流会」を開催しました♪

日時： 2026年7月14日 10:00～12:00
場所： 南区役所3階会議室
講師： 河内哲也氏
(南区地域部会部会長
もなみ学園学園次長 臨床心理士)
テーマ：こどもの気持ちの紐解き方
・アセスメントにつながる考え方の道筋

7月14日（火）、南区地域部会こどもチームにおいて、「子どもの気持ちの紐解き方・アセスメントにつながる考え方の道筋」をテーマとした学習交流会(研修)が行われました。

南区を中心とする児童発達支援、放課後等デイサービス、母子支援施設、相談室等から、52名の方にご参加いただきました！

今回の研修では、子ども一人ひとりの発達特性や気持ちを理解し、その理解を適切な支援につなげていくことの重要性について学びました。

子どもの行動には、その背景にさまざまな**思いや理由**があります。表面的な行動だけを捉えるのではなく、「**なぜこの行動が起きているのか？**」「**何を伝えようとしているのか？**」という視点を持ち、日々の関わりや行動観察を積み重ねることが大切であると学びました。

また、アセスメントは心理検査などの特別な場面だけで行うものではなく、**日々の支援の中での会話や観察、保護者からの聞き取り**なども重要なアセスメントになることを再確認しました。目の前の姿だけで判断するのではなく、これまでの成長や生活、家庭、地域など、**さまざまな視点から子どもを捉える**ことが必要です。

特に印象に残ったのは、「**子どもの特性を理解することは、理解して終わりではなく、その子が安心して過ごせる環境を整えるため**」という考え方です。子どもに合わせて環境や関わり方を工夫し、得意なことや強みを生かしながら、本人ができることを少しずつ広げていくことが、支援の大切な役割であると感じました。さらに、子どもだけでなく、保護者や関係機関との信頼関係を築き、地域の中で**連携して支援**することの重要性についても学びました。

今回の研修で得た学びを日々の支援に生かし、子ども一人ひとりの「その子らしさ」を大切にしながら、安心して過ごせる環境づくりと、本人主体の支援を地域の皆さんとともに進めていきたいと思います。





グループ発表から / 参加した方の感想から

放課後等デイサービスに来た
その日、その時の
コンディションも
アセスメント対象だ



困っているのはこども？
保護者？それとも自分？



相談/通所など事業によって
視点が違う。その視点を共有
して言語化することに価値が
ある



アセスメントは点ではなく
「面」で。
その手段があるといい。

絵カードによる支援、
学校と事業所で統一できたら
子どもさんにメリットがある
のでは・・・？

児童期の支援が成人期に
つながっていくことを
実感



支援者のメンタル、
支援者のウェルビーイングも
大事



今後のこどもチーム



南区地域部会こどもチームは昨年度から2年計画で『横のつながりを深める・支援力を高める』をテーマに活動を企画しており、第2回目の学習交流会（研修）を予定しています。次回は、南区家庭児童相談室から講師をお招きし、家児相室の役割や連携方法についてお話を伺う予定です。

「ちょっと気になる」「もう少し知ってみたい」という方も、ぜひ気軽にご参加ください。皆さんと一緒に学びながら、日々の支援について考える時間になればと思います。

次回学習交流会は **11月17日（火）午前** に開催を予定しています！

詳細・参加募集は札幌市からの一斉メールにてご案内予定です。

